

幼児教育における指絵具を用いた造形表現活動に関する一考察

Study of Using a Finger Paint in Creative Expression Activities of Early Childhood Education

松下 茉莉香
Marika Matsushita

鹿児島女子短期大学

1931年以降、世界中の幼児教育現場で試みられて来たフィンガーペインティングは、手や指を筆代わりに描画し、絵具に直接触れて遊ぶ表現活動で、触覚等の五感を養いながら素材の特性を学び、心を開放しつつ創造的な表現を育てる、幼児には欠かせない活動である。しかし、幼児教育を学ぶ本学学生への調査を通して、活動の認知度、経験、共に少ない事が明らかとなり、現場で十分な実践が出来ていない実態が推察できた。そこで、今後指導者となる学生に、この活動への興味関心を高め、幼児期にこの活動を行う教育的意義について学びを深めて貰う事を目的とし授業実践を行った。実践後の調査では98%が興味関心を持てた、現場で実践したいと答え、「色作りや絵具に触れることで感覚を研ぎ澄ませる事が出来る」「自分なりの心の表現が出来た」「幼児期は絵を描く技術より自由に素材そのものを楽しみ、知ることが大切だ」等、この活動の意義について考察を行えている事が確認出来た。

キーワード：幼児期、フィンガーペインティング、造形表現活動

1. はじめに

幼児期の描く活動には、子どもの自由な意思で描く「自由画」を始め、家庭や園など身近な生活体験の中から心に残った場面を、記憶を頼りに描く「生活画」、関心のある対象を視覚や触覚を通し、確かめながら描く「観察画」、幼児の見聞かしたイメージを組み合わせて作り替えたりして描く「構想画」といった絵画から、これらの具象表現とは異なり、描画材等の素材に直接触れ、体全体で関わることで、その魅力や特質を体感する遊びなど⁽¹⁾、一口に描く活動と言っても実に多様な造形表現活動が含まれる。

また、これらの描く活動の表現方法としては、クレヨンやペン、鉛筆類を用いて線を主に描く「ドローイング（かくこと）」と、水彩絵の具やポスターカラー、クレパス等を使って色を塗り広げながら描く「ペインティング（ぬること）」の大きく2つに分類出来る。⁽²⁾

後者の「ペインティング」に関しては、絵筆やローラーなど道具を媒介にして描く方法もあれば、手で直接絵具を塗り広げて描くフィンガーペインティングと呼ばれる活動もある。これについて、保育内容表現の主要なテキストを散見してみても、このような活動が必ず取り挙げられていることが分かる。

具体的なものを挙げると、指絵具を摩擦の少ない模造紙の上に広げて指先や掌を滑らせたり引っかいたりして点描や線描きをしたり⁽³⁾、数色を手で塗り広げていくことで色作りを行う内容や⁽⁴⁾、手型などのスタンプ遊びから発展し

自身の手足に絵具を塗るボディペイント⁽⁵⁾など多様な実践が紹介され、描く活動の一形態として紹介されている。

そこで本論では、幼児の描く活動として欠かせないフィンガーペインティングについて取り上げ、幼児教育を学ぶ学生に対してフィンガーペインティングに関する実態調査を行い、現在までの経験や興味関心について広く把握し、その実態を踏まえた上で授業実践を行うことで、この活動への理解と関心を深めると共に、幼児期にフィンガーペインティングを行うことの教育的意義について考察したい。

2. フィンガーペインティングの教育的意義について

1) フィンガーペインティングとは

本章では、フィンガーペインティングについてその活動の定義について触れ、一般的な教育的意義について明らかにしていきたい。

まず、フィンガーペインティングとはその言葉の通り、のりの混ざった指絵具を材料に、指を筆代わりにして塗り広げをしたり、絵を描く活動を指す。具体的な活動としては、指先だけでなく手の平や側面、腕全体など、色を付ける場所を変えて描画することや、絵具を塗布した上から指先で引っ掻いて点や線といった痕跡を残すこと、指や手形を写すこと等も含まれ、手の使い方一つで様々な造形が得られる活動である。しかし、このような豊かな造形が残る作品制作のための活動という側面だけでなく、本来は触覚や運動感覚を交えて絵具に触れる過程を楽しむための活動で

あることを保育者は十分理解しておく必要がある。

もともと、フィンガーペインティングは第一次大戦後のローマで、英米児童の教育に当たっていたルース・フェゾン・ショウ (Ruth Faison Shaw/1905-1969) が広めた活動であるが、このフィンガーペインティングの開発には子どもたちのふとした行動がきっかけ^⑥となったと言われている。

ある時、引っかき傷を負った子どもの治療をしようと、指にヨードを塗った所、絵を苦手としていたその児童が、薬を描画材の代わりにし、指で自由に、そして楽しそうに絵を描いたことにヒントを得て、子どもは道具を扱う準備が出来ていないうちに、大人が使うような絵筆を用いるよう求めると、児童は自由な表現が困難になる^⑦とし、子どもたちがその手に直につけて塗りたくれる材料 (活動) によって自由な表現を保証できないか^⑧と研究を始めたのである。その後、指で描く意義の考察から、子どもが安心して扱える描画材の様々な試作と実践を経て、1929年に、今も伝わるフィンガーペインティングが作り上げられ、^⑨1931年以降アメリカやヨーロッパを中心に世界中の園で実践され始めると、幼児教育だけでなくセラピーの一環として臨床現場でも広がりを見せていったのである。

では、この活動をどのように子どもたちと行ってきたのか、主に画材や指導上の配慮について幾つか挙げていきたい。

まず用いる画材について、子どもの活動に適した指絵具には次の4点を最低限の条件として挙げている。

①容易に水と融和出来て泥のような感触が残るもの、②描画をじっくり楽しめるように乾燥が遅いもの、③衛生面として色をすぐに落とせる素材であること、④直接皮膚に触れるものであるため、子どもにとって無害である事、等である。^⑩

さらに、実践を行う上での配慮事項は、①模造紙などの表面の滑らかな紙を水で濡らし皺を伸ばす等、支持体の準備から活動を始めること、②幼児が快く作業でき自由に動けるような高さの台で活動を行うようにすること、③子どもの好きな色を用いてペイントすること、④紙などの淵やへりから色が滲むこともあるが、子どもたちが自由に動けるようその活動の範囲を制限しないこと、⑤教員は子どもの絵をよく見て励まし、他から干渉されないように集中して活動できる環境を整えること^⑪等を挙げている。

つまり、どこから塗り始めるのか、どこで完成とさせるのか、どのように色を混ぜて、どんな制作物が出来るのか、その手順や制作技法、作品の完成形など、細かな指示を行うのではなく、子どもの自発的な活動によってそのいずれも、子どもたち自身に見つけてもらう事が大切なのだとしている。色作りを一つ例にとっても三原色を混ぜると中間

色や無彩色になる、という知識を与える必要はなく、彼ら自身が発見する色作りを保育者は見守る事が大切なのである。逆にこれを大人が教え込むことで、創造の喜びを台無しにすることは行き過ぎなのである。

また、彼女は著書の中で、フィンガーペインティングが、泥パイの孫である^⑫と繰り返し記していることから、この活動は純粋に絵画を描くための活動というより、泥団子作りや砂遊びと同様の、色のついた泥 (粘度のある絵具) に素手で直接関わる色泥遊び^⑬と捉えられ実践されてきた活動なのである。

つまり、ここで重要なのは、手形や指で辿った線がどう残るかという結果よりも、絵具に直接触れ、子どもの触覚などの感覚を通して絵具の粘度や匂い、温度を体感したりすることや、水を加えたり他色を混ぜることで、絵具の色や固さなどの状態が刻々と変化する様子を発見したりすること、そして何より、子どもがのびのびと自由に絵具に関わり心を発散しながら造形活動を楽しむことが大切なのである。

2) 幼児にとっての教育的意義

続いて、幼児期にこの活動を行う意義について明らかにしていきたい。

まず1つ目は、身体を思い切り使って表現することの価値である。フィンガーペインティングを行っている時、子どもの体は自然と踊っている^⑭と比喻されるように体全身で関わる活動なのである。これは、絵具を広げるのに無意識に手や腕、体全身が協力している事を指し、これによって自由にのびのびと描きながら体全体をコントロールすることを身につけ、身体の発達を促す所にその意義があると考えられる。

2つ目は、特別な技術や用具が必要なく、経験の浅い子どもにとって楽しく活動できる点である。フィンガーペインティングは絵具に触れ探求できる直接的な手段であるため、絵具の扱いに熟練した人でも、非熟練の人にも活動し易いものである。幼児のように絵具に触れる経験が少なくても、絵筆を扱う特別な技量も必要ないため、子どもの思いをのびのびと表現することが出来る。

逆に絵筆や鉛筆などを用いて表現する為にはある程度の技量と経験が必要で、十分使いこなせるまでの道のりを考えると、幼児期の子どもたちにとってはその表現の機会を逃してしまうことに繋がりがかねない。このように子どもの伝えたい思いや、素早く流れていく思考を、扱いにくい道具を挟むことで表現が阻まれてしまうことは問題である。その点、フィンガーペインティングは指や手を筆代わりにして描けるため、子どもの思いを即興的にのびのびと表現するに適した手法であると言える。

3つめは、遊びの要素があり描く充実感や喜びを感じられる活動であるという事である。

子どもにとってフィンガーペインティングは教育体験ではあるが、その中に教え込まれるというような指導はなく、遊びとくつろぎの要素^④があるため、子どもにとっては好奇心をくすぐられる素材で、集中して活動に取り組む事が出来るのである。

また、クレヨン等で描く時と比べて指絵には拳や掌など手に伝わる感触や得られる手応えがあるため描いていて充実感があり、子どもが喜んで活動に参加する要素がある。

4つ目は、子どもの思いを明らかにし、心を発散させる働きがある事である。

指絵描きとは、言葉での表現に困った子どもにとって、特に強い印象を受けた事柄やその時の思いを明らかに表現するための方法の一つ^⑤であるが、子どもの意識の流れや心に留めているものを、このような活動を通して表現しているのである。

さらに、自己の教育的な治療の向上を果たすような意味ある表現法で、精神の回復のための用具としての治療的価値^⑥があるとしているが、これは、子どもの心の奥深くに眠っている恐れや、経験の中に抑圧されている葛藤を除去する手助けとなることを示している。

例えば色について、様々な問題を抱える子どもたちは、自由に色を使って指絵を行ってみると、日頃の反動であるかのように美しく柔らかな色彩を好んで使い、注意深く保護されている子どもは、これとは逆に黒や茶色など土の色に強く惹かれる傾向が見られるという。これは、普段周りの大人から、手や衣服を汚してはいけないと遠ざけられている時などに、このような色に好みを示す傾向が高いことが分かったのである。^⑦ 必ずしもこれだけで子どもの心を全て理解することは難しいと思うが、フィンガーペインティングで出来た造形にはその時々の子どもの心を読み解く上で一つの重要な要素になり得る事は明らかである。

最後に5つ目として、出来上がる造形の美しさという点である。

全身で描く事を通して、往復弧線や渦巻型線など美しいリズムのある造形^⑧を描き出し、色に触れ混色する事で様々な色調を創り出すことが出来る。更に、塗り広げや線描が容易で、思いついたものを即座に表現出来るため、子どもの創造的な衝動を充足する事が出来、さらに偶然出来た線や色から、直観的感觉を得てまた新たな造形を生み出すきっかけになるのである。この様に、子どもの空想力または創造力を働かせながらその子独特の美しい造形が得られる活動である。

つまり、子どもにとってこの活動は、視覚や触覚等の身体感覚や、心の成長に必要な資源となる体験で、このよう

な遊びが欠如する事で子どもの健全な発達に影響が及ぶことが危惧される。

また、子どもがフィンガーペインティングを行っている際、初めは紙に指や手で絵具を付けたり、色をこねたりして、絵具を体で確かめようとする様子から、次第に自分の腕や顔、足に色を塗りたいく様子に変わっていく。

これは、触覚を通した探索行動としての意味だけでなく、色を付けられる体を持つ「自分」と、色を付けようとする形のない意思である「自分」という、自分の外面と内面に目を向け、これを一つに融合して^⑨自分の存在を確かめようとしている行為とも言える。

3. 学生へのアンケート調査と授業実践

1) 調査方法

対象：本学の専門科目である保育内容(表現Ⅰ)を受講した児童教育学科1年生229人。この内220名の回答を集計した。(回収率96.0%)

期間：(事前アンケート)

平成28年4月18日～22日

(授業実践)

平成28年4月25日～5月6日

(実践後のアンケート)

平成28年5月9日～5月13日

内容：調査対象者に研究目的を説明し、事前アンケートでは過去の経験等について調査を行い(表1の1～3)、事後アンケートでは実践を通して考察した事について(表1の4～12)調査した。

2) 事前アンケート結果

まず、事前アンケートでは、描く活動全般への関心と、フィンガーペインティングについて短大入学前にどの程度この活動が認知され、経験があるのか実態調査を行った。その結果を見てみると、フィンガーペインティングがどのような活動か、「知っていた」学生が23名、「知らなかった」と回答した者は197名となった。また、「知っていた」と回答した学生に、いつ頃知ったか尋ねると「保育所・幼稚園」が8名、「小学校」が3名、「中学校」が2名、「高校」が10名となった。

本学では保育科に通っていた学生も居る為、「高校」と回答する者も多いと予想はできたが、幼児期から特に小学校低学年を中心に造形遊びの一つとして絵具に直接ふれる活動も見られる為、ある程度は経験して来ただろうと予想していたが、幼児期だけで見ると、この活動を認知している学生の中でも33%、全学生と比較すると3.6%と大変少ない結果となり、この活動が十分認知されていない事が明らかとなり、現場で十分に絵具で遊ぶ経験が出来ていると

は言えない事が推察できた。

さらに、この活動をどのような場面で学んだか尋ねると、「授業や講座で学んだが遊んだ経験はない」が12名と1番多く、次いで「実際に遊んだ経験がある」者が11名、その他として、「ボランティアや職場体験など現場で行われている所を見て学んだ」が3名、「実習先の模擬保育で子どもたちと一緒に活動した」、「自分で興味があり調べたことがある」、「言葉として何となく知っている」がそれぞれ1名ずつという結果となった。

因みに、実際にフィンガーペインティングで遊んだことがあると回答した者の内、具体的な内容を挙げてもらうと、「机の上に絵具を広げたり、掌に付けて紙にペタペタ塗って遊んだ」、「大きな模造紙に皆で手形を残しながら絵を描いた」、「屋外で色々な色を出して、足でも模様を描いて遊んだ」など全身で絵具に触れる遊びを行っていたことが確認できた。

この実態調査の結果を受けて、学生に対し授業実践を行い、指導後に学生への意識調査を行うことで今後保育に携わる学生たちが現場でフィンガーペインティングを取り入れる為にどのような指導が必要なのか考察した。

3) 実践の内容と実際

①指絵具作り

実践の内容は大きく2つに分けられる。初めはフィンガーペインティングで用いられる指絵具についての理解が深まるよう、指絵具作りを行い、市販の指絵具も加えて3種類の絵具の特性の比較を行った。(図1)



図1

そもそも、指絵具と呼ばれるフィンガーペインティングの材料は、手に感触の伝わり易い糊状の濃い絵具が適していて、糊が混ざった絵具であるため乾きが比較的遅く、何度も描画を楽しめるような特性がある。市販されているものは、糊と絵具が丁度良い配分で調合されている上、皮膚に浸透しにくく、石鹸で簡単に落とせるもの等扱いやすい

品が出回っている。他にも、市販品では大量に絵具を使用する事を考えるとコストが嵩む事から手作りの指絵具も現場では使われていることが多い。

これに関して、下記にフィンガーペインティングで使用する絵具の一例を挙げてみる。

①ポスターカラー

指絵具の代用としても使用できる不透明水彩絵具で、もともと共同用に最適な絵具として200mlのポリチューブ入りの大型絵具が良く使われるが、これをそのまま用いたり、洗濯糊などを混ぜて使用方法がある。⁽³⁾⁽⁶⁾

また、この絵具は耐水性(乾いても水で濡らすと溶けない性質)ではないが、もともとデザイン用の絵具であるため色が強く、衣服につかないような配慮と成分によって使用する際には安全面への配慮が必要となる。

②粉絵具

粉絵具は、必要な絵具を適度な濃度になるまで水で薄めて使える便利な絵具で、もともと劇の背景画など大量に絵具を使用する場面で使われる。⁽⁴⁾そのため大量に使っても比較的安価でフィンガーペインティングなど大量の絵具を使う時に適した材料であると言える。

③指絵具

市販の指絵具は、他に比べコストが掛かるが、絵具と糊量も調節してあるため、蓋を開ければ指に付けてすぐに描き始める事が出来る。⁽³⁾保存場所や期間等も気にしなくて良い為使い易い。

また、最近は樹脂系のメディウムを使った指絵具もあり、色数も大分増えた上発色も良く、紙にのせても皸になりにくかったり、無害な成分で出来た品もある等便利な画材である。⁽³⁾

④小麦粉絵の具

皮膚の弱い子どもや、幼い子どもと活動する際は、皮膚に付いたり誤って口に含んでも、安全で無害な小麦粉絵の具を使うと良い。⁽³⁾ また、火にかけずに電子レンジで加熱して作ることも出来る。

⑤土粘土の粉

彫塑用粘土の専門店で扱っており、水で溶いて指絵を楽しんだ後、土粘土作りに発展すると無駄が無い。また、木工用ボンドを少し加えてトレー上で指絵を行うとそのまま乾燥させて作品を残すことも可能である。⁽⁶⁾

このように、指絵具には、代用できる材料も含めて幾つもの種類があるため、学生が実際に現場で扱う際、どの絵具を用いたら良いか迷うことも予想できる。そこで今回の実践では、代表的な絵具を3つに絞って紹介し、それぞれの特徴や良さを理解する事で現場に出た際、目的によって使い分けられるよう考察を行った。(図2)

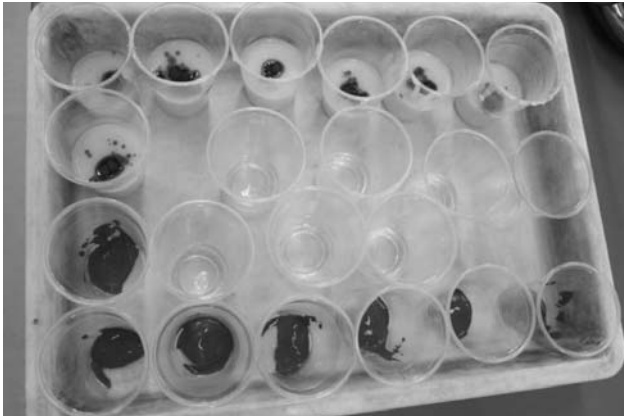


図2 上：小麦粉絵具 中：洗濯糊絵具
下：市販の指絵具

まず1つ目の絵具は、小麦粉を材料にした指絵具である。いわゆる天然糊を用いた指絵具だが、小麦粉の他にコーンスターチや片栗粉などでも代用できる。制作する分量は学生には作り易く、たっぷり絵具を使えるように、1グループ4～5人あたりに小麦粉100gに水1ℓと多めに準備した。両材料をよく混ぜて溶かし、(図3)火にかけ炊いていくと、とろみが出て半透明になる。(図4)この時、熱し方が弱いと指絵具で欠かせない粘度が弱くなることも伝え、グループを回って十分か確認した。その後容器に取り、食紅を少量足して指絵具を作った。この後の活動で色作りを行う事を考慮し今回は3原色の絵具を準備した。(図5)



図3 小麦粉と絵具を溶かす

2つ目の絵具は、洗濯のりにポスターカラーを混ぜて作る指絵具である。ポスターカラーだけで使用する事もあるが、乾燥遅延の為に指で描いた時の滑りを考慮し絵具1：洗濯のり2の分量で溶いて準備した。

3つめは市販されている指絵具である。絵具制作後、手に取って試す比較を行ったが、準備した3種類の絵具を1つずつ手に取り、1枚の模造紙の上に自由に広げさせ、十分関わったら2種類目、3種類目と絵具を変えていった。(図6)この様に、素材に触れて試してみ



図4 小麦粉と水を炊いていく



図5 食紅で3原色に着色する



図6 左：市販の指絵具
右：洗濯糊の指絵具を試し比較する様子

る事で、幼児の年齢や活動の目的に合った絵具はどれか判断出来る。

その他安全面以外にも、紙に落とした時の色の発色や伸び、乾燥の速さなど描く時に欠かせない造形面での違いがあるか、感触が十分感じられる粘度があるか、準備や掃除などの面で、扱い易いものはどれか、など比較出来る様に質問を投げていった。その結果として絵具に関わった際の学生の感想と補足として教授した内容を基にそれぞれの絵

具の特性をまとめた。(表2)

表2 絵具の特性について比較結果

	粘 度	伸 び	透 明 感	発 色	手 軽 さ	安 全 面	乾 燥
絵小麦 粉具				○			○
洗濯 糊			○	○	○	×	○
指市 販具の							

まず、感触遊びに必要な手応えや粘度は、冷えた小麦粉絵具が一番強く感じられ時間を置き温度が下がると寒天やゲル状のような塊になる事も実感出来た。続いて市販、最もサラサラとした液体状だったものが洗濯糊を混ぜた絵具となったが、両方とも温度や時間等によって固さが変化することは無かった。

続いて、色の伸びは粘度と反比例して市販品は最も滑らかで、続いて洗濯糊、小麦粉絵具は温かいものであれば伸びるが冷えると伸びにくいといった感想が聞けた。

更に、透明感と発色については、一番不透明度が高くしっかり発色するものが市販品で、色や形をはっきり描きたい時はこの様な絵具を使用すると良い事に気づけ、逆に透明感が高く淡く優しい色が表現出来るのが小麦粉絵具という結果になった。

また、手軽さで言うと蓋を開けてすぐ描ける市販品が一番使い易いという結果になった。確かに、市販の指絵具は小麦粉絵具と異なり常温でいつまでも保存出来るが、今回制作した小麦粉絵具は学生からも保存がきかず、作る手間がかかることも意見として挙げられた。

しかし一方で、手作りの大変さはあるが、安全面で言うと、アレルギーなどに配慮すれば、食品で出来ている小麦粉絵具は無害で、特に低年齢の子どもでも安心して使用出来るという利点にも気づく事が出来ていた。逆に洗濯糊の指絵具はポスターカラーなどで着色した為、有害な成分である色素が含まれている事もある。その為、使用する際は十分に配慮しなければならない。また、市販の指絵具も小麦粉絵具同様安全面に配慮され誤って口にしないように無害な苦み成分で作られたものから、一部では先程のポスターカラーと同じ不透明水彩絵具と同様の顔料が用いられているものもあるため、同様の注意が必要である。この様な使用する材料の安全面についても学生に伝えていった。

最後の乾燥については、目分量でほぼ同量を紙に広げて比較させたが市販品はこの中でも比較的速く乾き、次いで洗濯糊、小麦粉絵具も適度な時間が経つと乾いた。

②小麦粉絵具を用いた遊び

次の実践の内容として、小麦粉絵具に関わる5つの遊びを行った。

- ・遊び1 指や掌でスタンプ
- ・遊び2 様々な線で描く
- ・遊び3 3原色で色作りをする
- ・遊び4 モノプリントで線や形を写し取る
- ・遊び5 色んな道具で指絵具に関わる
- ・遊び6 様々な素材でコラージュ

まず、活動の流れとして配慮した事は、初めの遊びは手先や指先、掌など片手だけを使い、個人で比較的落ち着いて行える小さな表現から、徐々に腕全体や両手を使って絵具に大きく関わる表現、更にグループ皆で関われる活動へ移れるよう配慮した。また終盤では、指絵具を使った応用的な活動として道具等も一部加えた遊びを行った。

また、活動を行う前は汚れを気にせず関われ、線や色などの造形に気づけるように、白いシートの上に透明のビニールを重ね、手洗い出来る皿や手拭きを準備した。

遊び1では、指絵具に触れることに慣れてもらう為にいきなり両手を使う活動ではなく、片手を使っての個人活動を行った。また、指先、指の腹、掌、拳、手の側面など様々な場所で絵具を付けて描ける様に、スタンプを基本とした表現を行った。その際、点の大小を工夫できる主題をこちらで提示し、描いていった。主題は「動物の足跡」で、蟻-ネズミ-兎-狸-熊と、小さな動物から徐々に大きな生き物になるよう言葉がけをし、イメージしながら描いてもらった。(図7)



図7 指や掌を使い表現する

絵具を手につけた瞬間、指絵具がまだ暖かいことや、小麦粉の甘い匂い、手につけた時の感触などを口々に伝えている様子があった。描き初めの頃は、指や手のどの場所を使うか迷いながら描いていた者も居たが、ある程度慣れてくると、遠慮がちだった学生も絵具を垂れるほどたっぷり使い描き始めたり、動物のイメージに合った色を3原色から選んだり、表したい色を混色して描いたり、点でも変わっ

た造形にしようと、スタンプのような単純な動作から指をスライドさせたり、くるくると渦巻の様に点を広げたりして、様々な工夫をしようとする姿が見られた。(図8・9)

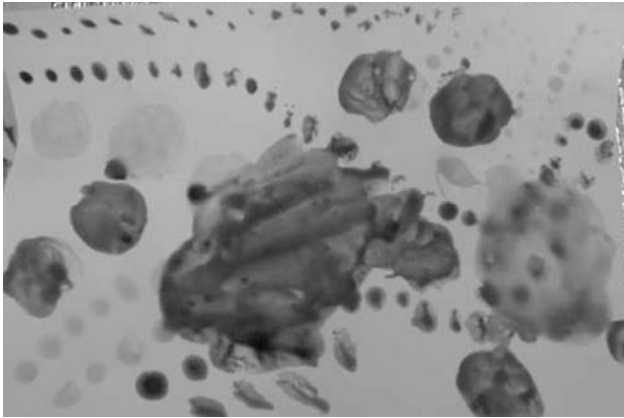


図8 大小様々な点で描かれた足跡

いった注意事項は伝えず自由に両手を使えるようにし、綺麗な作品を仕上げることを意識せずに、上からどんどん線や色を重ねて関わって良い事なども伝えていった。



図11 絵具溜まりを引っ掻き線描する様子

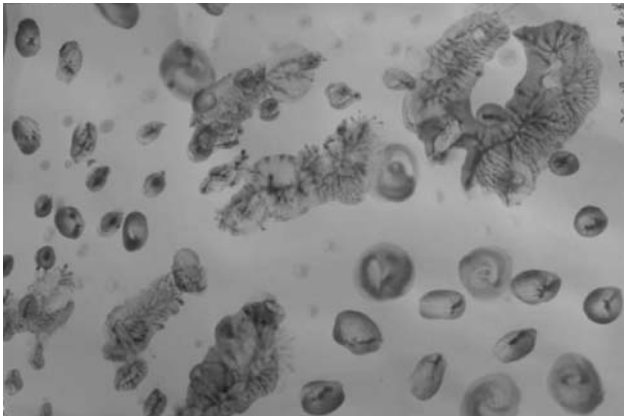


図9 大小様々な点で描かれた足跡



図12 様々な感情を線に託す

次の遊び2では、指絵具を画面上で伸ばして楽しめるように、線描を主にした活動を行った。ここでも、主題を与え、1枚の紙面に「喜・怒・哀・楽」という4つの感情のイメージを色んな線に置き換えて描くようにした。(図10) また、遊び1より、絵具に慣れた所だったため、片手でと

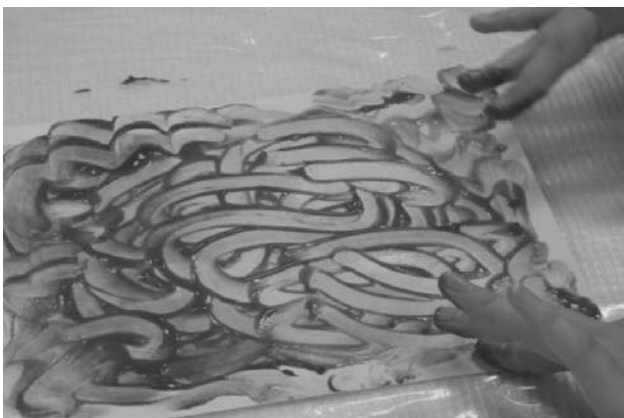


図10 曲線で思いを描く

描く様子を見ていくと、遊び1より反応が大きく、歓声を上げながら曲線や直線、波線など様々な造形を表していた。(図11・12) また、1つ1つのテーマを描き上げるたびに隣同士でどんな情景や場面を思い浮かべて描いた、など描いたものに説明付けをする様子も見られた。さらに、画用紙内に収まらないほど絵具を広げている学生も居り、この活動を十分に楽しめているようであった。

反省点として、学生は筆者の思いの他、絵具に慣れるのが早く、少しずつ心を発散し大きな身振りで描ける様子も多々見られたため、汚してもよい環境は整えていたが、もっとのびのび描けるように画用紙の大きさ等をもっと配慮すべきだった。

続いて遊び3では、色への関心を深めてもらい、学生間で交流しながら活動してもらいたいという事で、3原色を基に様々な色相を作ってもらった。まずグループ5人の内、赤・青・黄と担当する色を決めてもらい、机上に貼ってあった透明のシート上に直接残りの絵具を3点に少し距離を取った場所に置き、(図13) 両手で塗り広げてもらった。



図13 3原色をシート状に広げる

この時、まずは自分の担当色のみを使って大きく塗り広げていくようにし、絵具の上で平泳ぎをしてみよう、等声掛けを行い、両手で思いきり絵具に関われるようにした。(図14)



図14 両手で色を広げる

続いて、広げた色と他色が重なったら右手、左手それぞれで他学生の手に握手をする等自由に触れてもらい、2色を掌上で混ぜた後、シート上にも色が広がるように混色することで、3原色の内2色を混ぜた3つの中間色を作った。(図15)

この活動で出来上がった美しい色相環に感嘆の声が上がっており、フィンガーペインティングでは触覚だけでなくこの様に色を数色使うことで視覚を豊かにすることも、微かな色調を感じ取る感性を刺激する素材であることも改めて実感した。

次に、遊び4ではモノプリント遊びを行った。

先ほどの色作りで出来上がった多色の色相環の中から好きな色を選び、広げた絵具に好きな線や形を引っ掻いて描き、何度か繰り返した後、特に残したい線を画用紙を軽く



図15 混色による様々な色相の表現



図16 残したい造形をモノプリントで写す

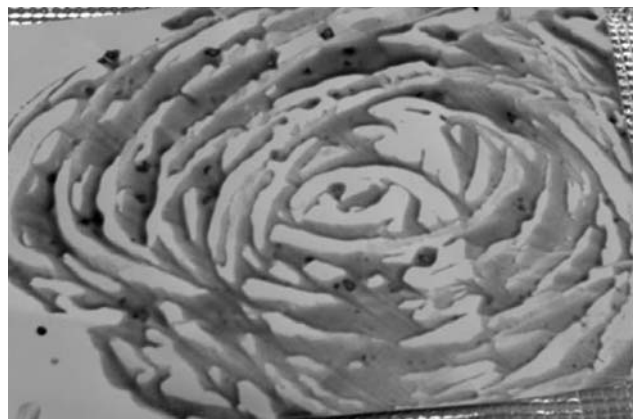


図17 モノプリントで写しとった造形

押し当て(図16・17)写し取る遊びである。

このモノプリントは、現場でも指で付けた軌跡を形として残す為によく行われる活動であるが、元々は版画の1種で、幼児の場合指で描く絵具遊びから発展すると、思いがけない模様や造形が現れる興味深い活動である。⁽³⁾

また、この遊びは手順を抑えれば幼児でも繰り返し遊べるもので、1版で1枚の絵しか刷る事が出来ないため何度試しても同じ造形が二つとして出来ない事や、間接的な表現となるため、紙をめくってみないとどのような造形が拓

がるか予測しきれない所に面白さがある。学生も、紙を広げて立ち現れた不思議な模様や色形に驚き、また1枚と繰り返し遊ぶ姿が見られた。

これまでの遊び1から4まで、手や指で描く活動であったが、遊び5では更に表現意欲や関心を高める手段として、指の代わりに用具を用いて指絵具に触れる活動を行った。

用意した用具は絵具を広げたり線を意識できる用具として、刷毛、スポンジローラー、波線や格子状のローラー、シリコン製のカードやプラスチックフォーク、割り箸を準備した。

ここで用意したローラーは、幼児にとって体全体で転がしたくなる動くおもちゃ^⑧で、ローラーの軌跡を線として感じ取ったり、ローラーに点を付けて転がして描いたりして様々な造形への気づきにもなる。

スポンジローラーや刷毛を始めとした用具を使うことで、指先や両手だけでなく、上半身や体全体を大きくダイナミックに使いながら絵具に関わることができる^⑨として活用した。

実際に、学生もこれらの用具を与える事で、指や手では表現し得ない模様や質感などが得られ、表現の幅が出来ていたが、(図18・19) 配布していた画用紙にこれらの道具

で色を付けたいという学生が多かったため、シート状に広げた絵具に、体全体で関わるといった目的は十分に達成できなかった。(図20)



図20 様々な用具で痕跡を残す

最後に遊び6では、指絵具の糊の成分を利用して細かく切ったストローや色画用紙、スパンコールなど平たい材料を用いてコラージュを行った。次に、「色のお好み焼き」と題して、これまで綺麗に残っていた色相環を全てシート上で潰し、全員で思い切り関わる発散活動を行った。(図21)



図18 ローラーを使って



図21 3原色を混ぜて思い切り関わる



図19 カードを使って

特に形や作品が残る活動ではないが、十分両手や腕など上半身を使ってのびのびと自由に絵具に関わっていった。そこで、3原色を混ぜると灰など無彩色が出来る事を発見したり、大きく身振りをして活動することで「楽しい、また遊びたい」といった感想も挙がっていた。最後に、十分関わられたグループは、シート状に細かく切った色画用紙を青のりなどの材料に見立てて振り入れて、活動を終了させた。(図22)



図22 紙を撒きコラージュする

4) 実践後のアンケート結果

この活動について興味が持てたか、実習や現場で実践してみたいか、また幼児にとってどのような効果が期待できそうか、という事についてアンケートを行った。

まず興味関心についてだが、実前アンケート内で、描く活動全般についての興味関心を調査し、もともと描くことが「とても好き」29名、「まあまあ好き」61名、「普通」86名、「あまり好きではない」42名、「嫌い」2名と、全体の4割の学生は描くことが好きであると答えている。一方で苦手と感じる学生も2割程居ることが確認できた。

この結果も踏まえて、事後アンケートの興味関心が持てたかという問いを見てみると、「とても興味が持てた」が161名、「興味を持てた」が55名、「少し持てた」が3名、「あまり持てなかった」が1名と、98%の学生が関心を持てたと回答した。この結果を見比べてみて、苦手意識のあった学生も、今回の活動を通して描く活動の多様性に触れた事で、絵に対する感じ方を変え、興味関心を持つきっかけとなったことは明らかで、描く事を喜びとして感じられるような要素がこのフィンガーペインティングにはあると感じる事が出来た。

次に、「とても興味を持てた」「興味を持てた」「少し興味を持てた」と答えた学生がその理由として挙げたものは以下の通りである。(複数回答可としたため点数化して集計した。)

まず多かった意見から順に挙げていくと、「制作が楽しかった」186点、次いで「上手い下手など評価を気にせず表現出来た」136点、「のびのび自由に絵具に関われた」135点、「視覚・触覚などの五感が豊かになる」100点、「簡単にできた」97点、「色の広がりや混色の美しさに気づけた」94点、「友達とコミュニケーションが図れた」93点、「いろいろな絵具の変化に気づけた」79点、「偶然できる色形に興味を持った」70点、「絵具を使った遊びについてもっと知りたくなった」66点、「描く以外の方法のよさを学べた」61点、「将来役に立ちそう」54点、「自分の気持ち

を素直に表現出来た」45点、「偶然できた造形からイメージが広がった」「心を開放できた」共に22点、「制作の手順やポイントが掴めた」「表現力が身についた」共に19点という結果になった。

次に、現場や実習で子どもたちと感触遊びを行ってみたいかという問いに対しては「そう思う」が216名、「そう思わない」が3名、未記入1名という結果となり、その理由も尋ねると「そう思わない」理由として、「手が汚れて爪に色が残ったので衛生上良くないと思った」、「実習では準備や片づけに時間が取られそう」という意見が挙げられた。

今回作った指絵具は、低年齢の子どもにも安全に使える絵具ということで、通常絵具を落とし易くする粉石けんを加えずに口に加えても無害な食品のみで作った為、色の落ちが十分では無かった。ただし、実践内では年齢によっては汚れを落とし易くする工夫や、片付けも容易な専用の指絵具があることにもふれているため、対象とする子どもの年齢によって使い分けしてほしい。

また、描画する道具類もローラーやスポンジ、割り箸、カードなど沢山の道具を紹介した為、結果片づけにも時間が掛かってしまった。今後は、活動のねらいによって必要なものだけに絞り活動に使用する事も検討していかなければならないと感じる。

一方、現場で「実践してみたい」と答えた理由としては「自分で実際に体験して興味を持ったから」という理由が一番多く、外にも「幼児期は絵を描くテクニックより、この活動のように、素材そのものを楽しみ、知ることが大切だと思うから」「小麦粉を使うことで安全に遊びを楽しめて、身近なもので作れるので手軽で、現場でも絵を描いてみたいと思った」「子ども同士や、先生と子どものコミュニケーションが取れる教材だと思ったので教えてみたいと思った」「簡単で楽しく活動出来て、自由にその子なりの心の表現ができるところが良いと思ったから」「子どもの手や指、色を感じる感覚などが絵具にのびのび触れられることで豊かになるかもしれないと思ったから」、「色んな絵具とのかかわり方や表現方法が試せるので絵具について楽しく知ることができると思うから」などの意見が多く挙げられた。

4. おわりに

幼児の造形表現活動には、必ずしも大人が想定していたような活動や見栄えの良い作品が残らないことも多い。特に描く活動と言うと、つい周りの大人は鮮やかな色で、丁寧に描かれていて、見た人に伝わり易い具象形であって欲しいと期待する事も多いが、幼児の活動ではより良い作品作りという「結果」として残ったものより、紙からはみ出すほどダイナミックに描いて心を発散したり、色を混ぜて

汚したりすることで物の様々な変化に気づく鋭い感性を磨いたり、初めて出会う材料に全身で思いっきり触れて、楽しく素材を体感しながらそのものの特性を学んでいたり、視覚や触覚といった五感を豊かにしたりすること等が重視されるべきで、そのような体験が十分保証されることが大切である。

この実践を通して、今後保育に携わる学生が、幼児期には欠かせないそれらの学びや体験が得られる一教材であることを理解し、今後現場で生かしていただいたい。

参考文献

- 1) 花篤實：「造形教育/技法編 1 幼児画の本 みずえのぐによる技法・実践・理論指導」株式会社サクラクレパス, 1983年, pp10, 44-47, 96
- 2) 子どもの造形表現研究会・編著：「保育者のための基礎と応用 楽しい造形表現」圭文社, 2007, pp.51-55
- 3) 辻泰秀：「幼児造形の研究 保育内容「造形表現」」萌文書林, 2014, pp.3, 23, 50-53, 68
- 4) 中川香子・清原知二：「新時代の保育双書 保育内容表現」株式会社みらい, 2010, pp.125, 160
- 5) 玉井美知子：「新幼稚園教育要領・保育所保育指針 準拠 子どもから学ぶ保育活動「表現」」学典出版, 2001, pp.60-61
- 6) ルース・フェゾン・ショウ著・深田尚彦訳：「フィンガーペインティングー子どもの自己表現のための完璧な技法ー」黎明書房, 1982, pp10-11, 20, 26-29, 36, 40-44, 49, 52, 56, 120-121, 127, 234-236, 248
- 7) 横英子：「保育をひらく造形表現」萌文書林, 2008, pp17
- 8) 磯部錦司：「子どもが絵を描く時」一藝社, 2006, pp11-12

(2016年12月 2 日 受理)

【絵の具を用いた感触遊び(フィンガーペインティング)に関する調査】

児教1年 組 ホーム ホーム 番 氏名

事前アンケート

- (1)～(3)について、本学に入学する以前の過去の活動を思い出して、お答えください。

(1)「保育内容(表現Ⅰ)」を受講する以前にフィンガーペインティングがどのようなものか知っていましたか。
どちらかの記号を○で囲んで答えてください。

A ・知っていた B ・知らなかった

(2) (1)で「A・知っていた」と答えた人で、次の2点についてお答えください。

●まず、いつ頃知ったかを【 】の中から時期を1つ選んで○をつけてください。

●次に、その理由として当てはまるものを記号A～Gから選んで○をしてください。

→ いずれも、その他と答えた人は具体的な内容を記入してください。

いつ頃知りましたか? 【・保育園 ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・高校 ・その他()】

どのようにして知りましたか? (複数回答可)

- A ・過去に遊んだ経験があった
- B ・保育現場で見て学んだことがあった(職場体験や実習・ボランティア等)
- C ・保育現場で実際に教えた子供たちと活動したことがあった
- D ・授業や講座で学んだことがあった
- E ・興味があり本やインターネット、テレビ等で調べた(見た)ことがあった
- F ・なんとなく言葉の意味は知っていた
- G ・その他 ()

(3) (2)で「A～E」と答えた人は、実際に遊んだり、子供に教えたり、学んだりした具体的な内容を記述してください。(できるだけ詳しくお願いします。)

事後アンケート

- (4)～(12)について今回の授業での活動に関して以下の内容に答えてください。

(4) もともと描く活動は好きですか。1つ選んでください。

A ・とても好き B ・まあまあ好き C ・普通 D ・あまり好きじゃない E ・嫌い

興味を持てた/持てなかった その理由を記入してください。

(5) 授業で小麦粉絵の具を用いた感触遊び(フィンガーペインティング)を体験してみて、興味を持てましたか。1つ選んで下さい。

A ・とても興味を持てた B ・興味を持てた C ・少し持てた

D ・あまり持てなかった E ・全く持てなかった

(6) (5)で「A～D」と答えた人に、その理由としてふさわしいものを選び記号に○を付けてください。

(複数回答可)

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| A ・制作が楽しかった | B ・絵の具を使った遊びについてもっと知りたくなった |
| C ・簡単だった | D ・自由に絵の具に関われた |
| E ・偶然できる模様や形に興味をもった | F ・触覚・視覚などの五感が豊かになりそう |
| G ・色んな絵の具の変化に気付けた | H ・制作の手順・ポイントが抑えられた |
| I ・「描く」以外の技法のよさに気づけた | J ・表現力が身についた |
| K ・周りとコミュニケーションが図れた | L ・上手い・下手など評価を気にせずに表わせた |
| M ・偶然できた表現からイメージが広がった | N ・自分の気持ちを素直に表わせた |
| O ・将来役に立ちそう | P ・色の広がりや混色の美しさに気付けた |
| Q ・心を解放しひびのび表現できた | |
| R ・その他 () | |

(7) (6)で「D～E」と答えた人に、その理由としてふさわしいものを選び数字に○を付けてください。

(複数回答可)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| ① ・時間が足りず、じっくり制作できなかった | ② ・活動が楽しかった |
| ③ ・高い技術が必要だと感じた | ④ ・活動が多すぎた |
| ⑤ ・準備物が多くて大変だった | ⑥ ・道具などの扱い方が難しかった |
| ⑦ ・簡単な制作だったのでつまらなかった | ⑧ ・これまで経験したもののばかりだった |
| ⑨ ・模様や形が思い浮かばず苦労した | ⑩ ・感触に慣れるまで積極的に触れられなかった |
| ⑪ ・制作手順についての事前の説明が十分でなかった | ⑫ ・汚れるのが嫌だった |
| ⑬ ・その他 () | |

(8) 現場に出たとき、または実習などで絵の具を用いた感触遊びを行ってみたいですか?

A ・そう思う B ・思わない

(9) (8)と答えたその理由を具体的に記入してください。

(10) (8) で「A・そう思う」と答えた人にお尋ねします。
現場で、フィンガーペインティングを行うとしたら、子どもたちにとってどのような効果が期待できそうですか？ あてはまるものの記号をOしてください。(複数回答可)

A ・制作する楽しさを感じられる	B ・遊びながら絵の具の特性に気付ける
C ・見て描く(写生)活動より楽しくできそう	D ・のびのびと自由に表現できる
E ・偶然できる模様や形に興味をもてる	F ・船算や指算、鳴算などの五感が豊かになる
G ・表現力が身につく	H ・友人とコミュニケーションが取れる
I ・上手い・下手などの評価を気にせずに表現せる	J ・発想する力が高められる
K ・苦手意識のある子供でも楽しく制作出来そう	L ・手・指の運動機能が高められる
M ・新鮮な気持ちで活動に臨めそう	N ・心が癒されたり、心を開放できる
O ・色への興味が広がる	
P ・その他 ()	

(11) フィンガーペインティングを現場で取り組む場合、どのような所に活動の難しさがありますか？
記号に1つOを付けてください。

A ・じっくり制作する時間が必要	B ・子供たちには難しそう
C ・子どもたちにも高い技術が必要	D ・特別な道具が必要
E ・子供にとって道具などの扱い方が難しそう	F ・言葉かけなど指導するのが難しそう
G ・教える側にも特別な表現力・技術が必要	H ・場所や環境を整えるのが難しそう
I ・準備が多く後始末も大変そう	J ・手軽に取り入れられなさそう
K ・その他 ()	

(12) 授業の中で、絵具作りと絵具を使った遊びを行いました。それぞれの活動を振り返って、活動の面白さ、難しさ、さらに感想をまとめてください。

活動の内容 (遊びの種類)	面白さ・良さ	難しさ・大変だったこと	気付いた事・感想
絵具作り			
～作った絵具の濃さを 比較し楽しむ～			
フィンガーペインティング①			
～指や手の平で色々な点を描く～			
フィンガーペインティング②			
～思いを線で描く～			
フィンガーペインティング③			
～3色で色々な色を作る～			
フィンガーペインティング④			
～モノプリント～			
フィンガーペインティング⑤			
～色々な材料で描く～			
フィンガーペインティング⑥			
～コラージュ～			